

内部質保証システム構築に向けた教学IRとFDの連動 ー 教務データベースの開発・活用から

森, 雅生

<https://hdl.handle.net/2324/18896>

出版情報：日本大学教育学会 第32回 ラウンドテーブルミーティング, 2011-01-19
バージョン：
権利関係：



● 教務データベースの開発・活用から みた教学IRの可能性

九大評価情報室の取り組み事例

九州大学 大学評価情報室
森 雅生

大学教育学会第32回大会
ラウンドテーブルミーティング
「内部質保証システム構築に向けた教学IRとFDの連動」
平成22年6月6日

教務データベースの開発・活用からみた 教学IRの可能性

経営に特化：学生の入学
と移動に大きな関心

☆ IRの存在要因（米国型）

外圧	情報基盤	人材
<ul style="list-style-type: none">・ 州政府への報告義務・ 大学ランキングへのデータ提供	<ul style="list-style-type: none">・ 機関情報の標準化・ データウェアハウスの構築運営・ データ分析の可視化	<ul style="list-style-type: none">・ 基本的技術力・ 課題分析力・ 文脈的行動力 <p>(Terenzini 1999)</p>

アメリカ型IRの日本における実現可能性
(森ほか、2009、高等教育学会第12回発表要旨)

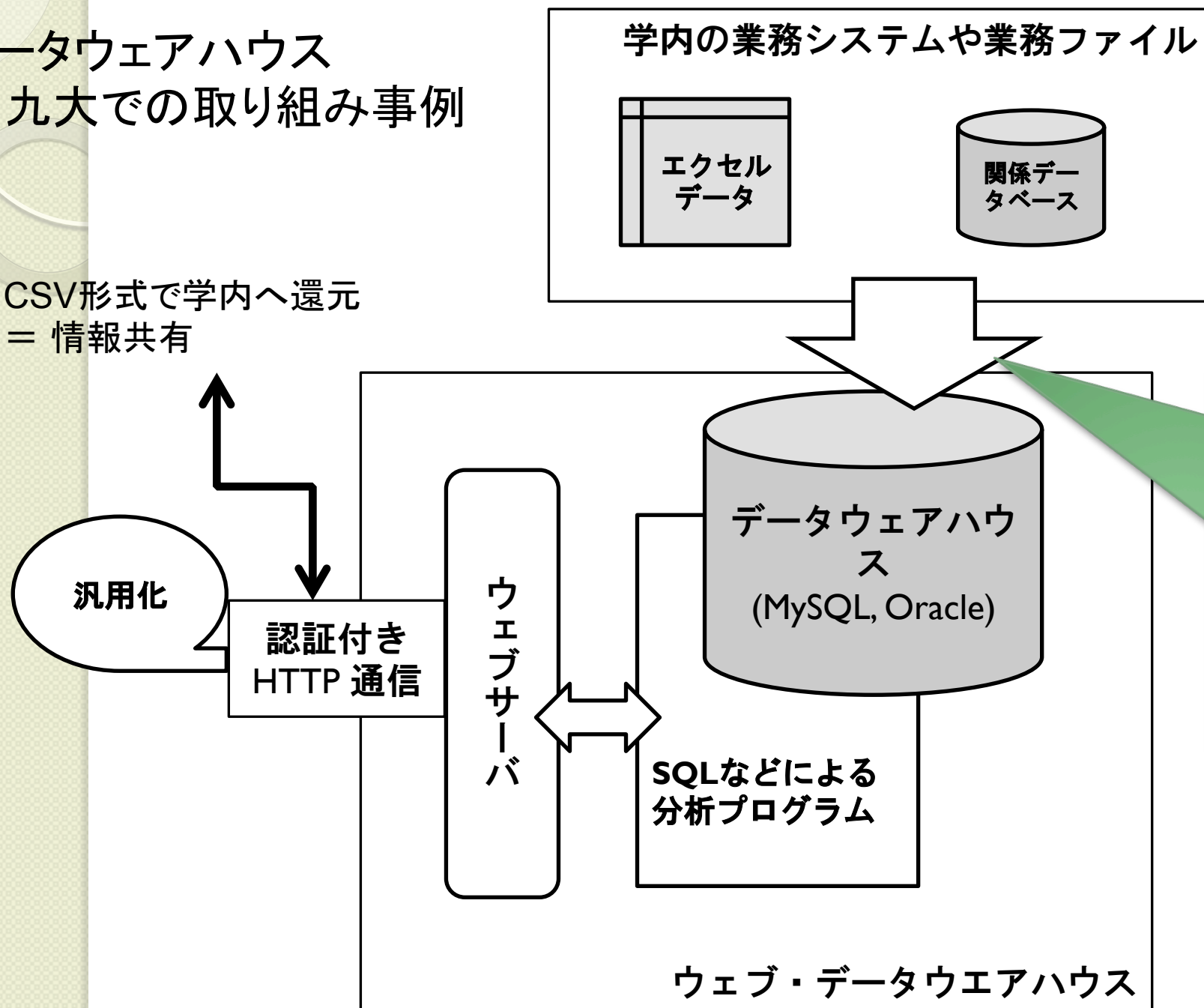
☆ 組織化しないIR機能（オランダからの示唆）

“IRコーディネータ” = 情報の収集と分析の統括

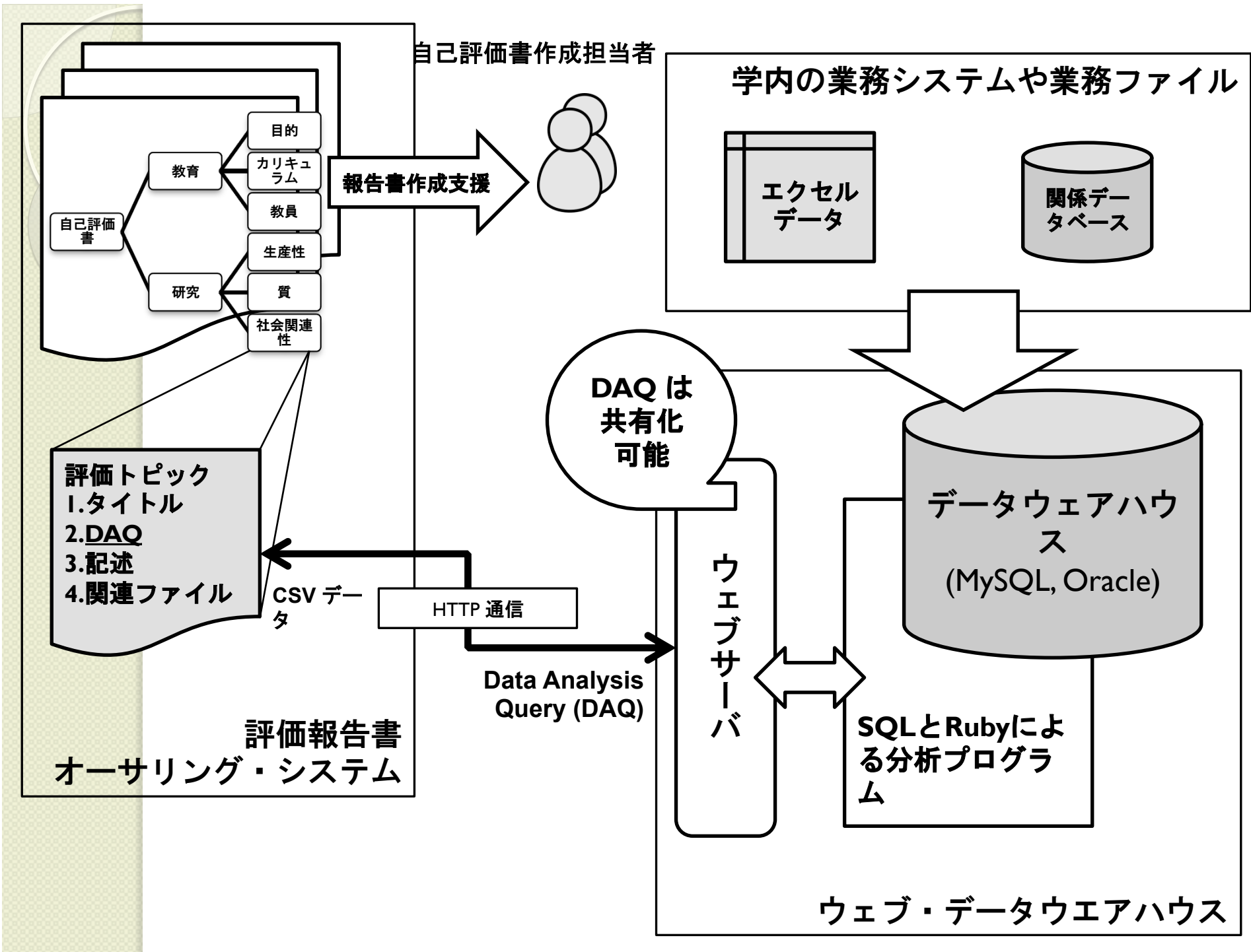
オランダの大学におけるIRの役割—内部質保証への貢献—
(小湊ほか、2010、高等教育学会第13回発表要旨)

データウェアハウス — 九大での取り組み事例

CSV形式で学内へ還元
= 情報共有



定期的収集



教務データベースの開発・活用からみた 教学IRの可能性

• 教学IRにおけるICTの展開

体制	環境	人材
<ul style="list-style-type: none">• 学内からの信頼• 情報収集経路の確保• IR活動の学内認知	<ul style="list-style-type: none">• 安全なネットワークとデータウェアハウス• 学生個人の追跡が可能なデータ群	<ul style="list-style-type: none">• 管理運営能力• データ分析能力• 開発企画力• 大学経営や高等教育文脈への理解

問) システム化できればIT専門人材はいらない？

答) “NO”

学内システムのリプレースへの対応

常に変化する分析トピック

管理運営を外注することの弊害

教務データベースの開発・活用からみた 教学IRの可能性

● 教学IRにおけるICTの展開プロセス

第1段階 「収集」	情報の流れ見極めと効率的な収集の確立
第2段階 「理解」	情報定義の理解とクロス集計などの基本的データ処理
第3段階 「定型化」	多様な報告業務に対応できる体制作り
第4段階 「開発」	分析手法や可視化手法の開発